

甲斐市立 竜王中学校 自己評価書

令和2年1月27日(月)作成

校長 「 今村 弘樹 」

記述者 (教頭) 「 坂本 公彦 」

校訓『自立創造』

学校教育目標

- ◎ 自ら学ぶ生徒 (知育)
- ◎ さわやかで心豊かな生徒 (徳育)
- ◎ たくましく生きる生徒 (体育)

生徒の努力目標

- 確かな学力は「生きる力」……授業へ真剣に主体的に取り組もう。
- あいさつは「心の交流」……さわやかな挨拶をかわそう。
- 継続は「力」なり……根気よく心身の鍛錬に取り組もう。

- | | |
|-----------------|----------------|
| ・「思いやりの心」を育てよう。 | ・学校や仲間のために働こう。 |
| ・部活動を活発にしよう。 | ・歌声を響かせよう。 |

学校経営方針

- (1) 甲斐市教育振興基本計画「創甲斐教育」を具体化した学校教育を推進する。
- (2) 学習指導
 - ① 一人ひとりの能力や適性を的確に把握して、個に応じる指導法の工夫・改善に努め、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。(ユニバーサルデザインの視点での授業改善)
 - ② 生徒の意欲や体験的な活動を重視し、既習事項を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成に努める。(主体的・対話的で深い学びの実現)
 - ③ 教科への興味関心を高め、学習意欲を引き出し、家庭学習に自主的に取り組む生徒を育てる。(家庭学習と授業の連動を推進)
- (3) 生徒指導
 - ① 規範意識をはぐくみ、基本的な生活習慣の確立を図る。
 - ② 生徒一人ひとりを適切に理解し、好ましい人間関係をつくる。
 - ③ 学校、家庭、地域、関係機関と密接な連携をとった生徒指導を推進する。
 - ④ 問題行動について共通理解を持ち、学校全体として対応する。
 - ⑤ 不登校生徒に対する理解を深め、連携を密にし、生徒に寄り添った指導を図る。
 - ⑥ いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。
- (4) 道徳指導 …「道徳的価値の自覚を促し、道徳的実践力を育てる」
 - ① 規範意識としなやかな心の醸成を図る。
 - ② 教科としての道徳授業の改善に努め、道徳的実践力の育成に努める。

(5) 特別活動

<学級活動>

- ・望ましい学級集団づくりを通して、よりよい人間関係を築く。(Q—Uの活用)
- ・一人ひとりが出番と居場所のある学級づくりを進める。
- ・自己の特性に気づかせ、意欲的な生活態度と将来の展望を育む。

<生徒会活動>

- ・学校生活を楽しく充実したものにするため自治的集団的活動を展開する。
- ・生徒の自主性、協調性を育成し、生徒相互の人間関係づくりを進める。
- ・校内、地域のボランティアを奨励し、母校、地域に貢献する態度を育てる。

<学校行事>

- ・学校生活をより豊かにする体験的活動を展開する。
- ・合唱活動を推進し、明るい声が響き合う学校づくりに努める。

(6) 保健・安全指導

- ① 心身の健全な発達を図り、衛生的な環境づくりに努める。
- ② 学校事故の防止、交通安全指導の徹底に努める。
- ③ 自他の命の大切さ、安全意識の向上について、計画的・系統的に指導し、自ら災害や危険から身を守る態度を養う。
- ④ ラジオ体操を奨め、体力づくり一校一実践を推進する。

(7) 給食指導

- ① 給食指導を通して、食に対する基本的知識を身につけさせる。
- ② 望ましい食事マナーを身につけさせる。(服装、配膳、片付け、あいさつ等)

(8) 情報教育

- ① 情報リテラシーを身につけさせる。
- ② 情報モラル教育を推進し、安全に情報メディアを利活用できる力を育成する。

(9) 国際理解教育

- ① 諸外国の歴史や文化等について理解をすすめ、我国の文化や伝統を尊重する態度を養う。
- ② キオカック(アメリカ)、タラマラ(オーストラリア)との国際交流を進める。(隔年で受け入れ・派遣事業を実施)

(10) 環境教育

- ① 環境美化、環境保全、資源の有効利用などについて、主体的に考え行動できる資質を培う。
(パンジー等の植栽、牛乳パックやアルミ缶の回収など体験活動を推進)

(11) 特別支援教育

- ① あすなろ、かしのき2つの特別支援学級担当者相互、他の教職員、保護者との連携を進め、一人ひとりのニーズに応じた教育に努める。
- ② 自立心を養い、円滑な人間関係を築けるように育てる。

(12) 心を耕す読書教育

- ① 心を豊かにする読書指導を積極的に行う。(朝読書の効率的な活用)
- ② 授業で図書館の活用を進める。

(13) 保護者・地域との連携

- ① 学級・学年・学校だより等の発行、学校ホームページによる情報発信に努める。
- ② 保護者・地域の願いを把握し、地域に根ざした教育の推進を図る。
(終日学校開放日、PTAとの連携、地域人材の活用、地域貢献活動)

1 全体評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・51の評価項目の内、49項目において、肯定的評価〔A（とてもそう思う）＋B（そう思う）〕が80%を超えている。（H30は47項目） ・最頻値については、全51項目中、Aが26項目であった。（H30はAが16項目） ・否定的評価〔C（ややそう思わない）＋D（そう思わない）〕の割合が比較的高かったもの（20%を超えたもの）は、「Ⅱ学校運営について」の中の「特別支援教育の体制が整い、機能的に行われている」と、「Ⅴ地域との連携」中の「教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域教育力を生かす指導を行っている」の2項目であった。（H30は4項目） 	
2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）	
I 学校教育目標に関して・学校経営について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全7項目、全てが肯定的評価80%以上となった。 ・A評価の割合が高かったものは、「教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている」だった。 ・過去2年間より、A評価の割合が増えた項目が5項目あり、特に昨年度の課題であった「職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。」については、A評価が約13ポイント増加した。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標や学校経営方針は、学校の教育活動の根幹である。実態を正確に把握し、育成すべき資質能力を明確にした上で各教育活動を行うことを継続しているが、今後も教育活動の意義やねらいの明確性を確認し、PDCAサイクルを必ず回すことを念頭に、指導及び活動を推進していきたい。 ・職員会議等の時間等は昨年度より改善傾向にあり、それらを教職員が実感していることは、本年度の取り組みの成果であるといえる。今後も多忙化改善計画に則り、個々の職員の勤務実態を把握し、会議の精選や時間短縮を推進し、各分掌や報告文書のデータ管理など職務の効率化を図りたい。また、本年度実施した勤務時間把握の取り組みを継続して行い、職員の意識改革にも努めていきたい。
Ⅱ 学校運営について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全10項目の内、9項目が肯定的評価80%以上となった。（H30と同じ） ・A評価の割合が高かったものは「校舎内外の施設設備を定期的に点検し、結果を的確に処理・報告(整備保全)している」と「個人情報保護・情報セキュリティの観点から、諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している。」「他の教職員と相互理解や信頼関係を深めて、教育活動にあたっている。」「職務上『報告、連絡、相談、確認』を行っている。」である。低かったものは、「危機管理（防犯、防災、事件、事故等）マニュアルを理解している」と、「あなたの学校は、特別支援教育の体制が整い、機能的に行われている。」「あなたの学校は、適材適所の校務分掌がなされ、負担について配慮がなされている。」であった。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌についての肯定的評価（A＋B評価）は昨年度より5ポイント増加したものの、A評価は微増であった。今後も、個に負担が偏らないよう分掌の平準化を進めるとともに、協働体制を高め、チームとして組織的な対応を行うとともに、相談しやすい風通しの良い職場環境づくりを推進していきたい。 ・本年度は教職員数の減少があり、支援を必要とする生徒に対し、組織体制が十分であると感じる職員が減少した。今後、より機能的な指導体制を構築し、全ての生徒が安心して学べる学習環境づくりを推進していきたい。 ・危機管理に関しては、危機管理マニュアルに基づいた、実践的な訓練を行い、避難場所や避難経路の確認などの改善を繰り返し、職員と生徒の防災減災意識を高めていきたい。

Ⅲ 学習指導について（児童生徒用アンケートも含めて）

達成状況

- ・全項目が肯定的評価80%以上となった。また5項目で最頻値がAとなった。
- ・A評価の割合が高かったものは、「あなたは、民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくりを行っている。」「あなたは、基礎・基本の定着を図る授業を行っている。」であり、低かったものは「あなたは、宿題や家庭学習に対する指導を行っている。」であった。
- ・道徳についての質問項目「あなたの学校では、計画的に道徳の時間が実施され、心に響く授業が行われている。」は、昨年度に比べA評価が29ポイント上昇し、肯定的評価(A+B)が96%となった。

※生徒アンケートより

- ⑤ 学校の授業は楽しいですか…
A34%(前年比+3)、B48%(前年比-5)、C14%(前年比+1)、D4%(前年比+1)
- ⑥ 先生はよく勉強を教えてくださいか…
A57%(前年比+2、H28年度比+17)、B40%(前年比-3)、C3%(前年比+1)、D0%(前年比±0)
- ⑦ 国語の授業の内容はわかりますか…
A38%(前年比-8)、B49%(前年比+5)、C11%(前年比+2)、D2%(前年比+1)
- ⑧ 数学の授業の内容はわかりますか…
A37%(前年比-7)、B47%(前年比+5)、C13%(前年比+2)、D3%(前年比±0)
- ⑨ 授業でわからないことがあったら先生に聞いていますか…
A36%(前年比±0)、B41%(前年比+2)、C19%(前年比-1)、D4%(前年比-1)
- ⑩ 授業中に発言や発表をしますか…
A31%(前年比+3)、B34%(前年比+4)、C28%(前年比-4)、D7%(前年比-3)
- ⑪ 宿題を忘れずにやっていますか…
A46%(前年比±0)、B43%(前年比±0)、C9%(前年比+1)、D2%(前年比-1)

改善策

- ・生徒アンケートの⑥「先生はよく勉強を教えてくださいか」において肯定的評価が97%と好結果を得た。⑦・⑧の国語の授業や数学の授業の内容についても肯定的評価が、それぞれ87%、84%となり、創甲斐教育指標を越えることができた。A評価は前年度比でやや減少しているものの、全体として肯定的評価を維持しているのは、校内研究組織を中心に授業改善に取り組み、生徒が主体的に学び、思考力・判断力・表現力を高める学習指導について実践的な研修を重ねてきた成果といえる。今後も、学習の基盤となる生徒との信頼関係を構築しつつ、教職員自らが学び続ける姿勢を持ち指導力を磨き、生徒の確かな学力を育成していきたい。
- ・道徳に関する教職員の自己評価が大きく伸びた。これは、今年度から実施となった「特別の教科道徳」の授業が、計画的に行われていることを示している。今後も「さわやかで心豊かな生徒の育成」のため、「考え議論する道徳」「道徳の評価」について、全職員で組織的な実践研究を推進していきたい。
- ・「家庭学習への指導」についての評価が、昨年度より下がったのは、家庭学習指導に対する教職員の課題意識が高まった結果と言える。現在、下校前に家庭学習の準備をする時間「竜王中スタンバイ学習」の全校実施へ向け、最終調整を行っている。家庭学習と学校の授業を有機的に結びつけ、生徒自らが課題意識と学習意欲をもって家庭学習に取り組むよう、今後も具体的な改善策の検討を重ねていきたい。

IV 生徒指導について（児童生徒用アンケートも含めて）

<p>達成状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全8項目全てが肯定的評価 80%以上となった。 ・A評価の割合が高かったものは「あなたは児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている」と「あなたは、児童生徒の規範意識をはぐくむ指導に取り組んでいる。」であった。 ・特に「規範意識を育む指導」については、A評価が昨年度に比べ26ポイント増加した。 ・A評価が低い項目は、「不登校の生徒やふれあい教室へ登校している生徒に対し、多くの職員が関わり指導している。」であった。 <p>※ 生徒アンケートより</p> <p>① 学校は楽しいですか… A54%(前年比-4)、B37%(前年比+2)、C7%(前年比+2)、D2%(前年比±0)</p> <p>② クラス(学年)に仲の良い友達がありますか… A67%(前年比+3)、B29%(前年比-3)、C4%(前年比±0)、D0.3%(前年比±0)</p> <p>③ 困ったことがあったら相談できる友達がありますか… A&B87%(前年比-2)、C12%(前年比+3)、D1%(前年比-1)</p> <p>④ 人が困っているときは進んで助けていますか… A51%(前年比+5)、B43%(前年比-4)、C5%(前年比-1)、D1%(前年比±0)</p> <p>⑩ 困ったことがあったら相談できる先生がいますか… A(&B)72%(前年比-2)、C23%(前年比+3)、D5%(前年比-1)</p>
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒指導は、学校教育の土台」と考え、Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）を実施して学級集団をアセスメントし、ルールとリレーションを意識した集団づくりを継続的に取り組んできた。生徒アンケートにおける肯定的評価（A&B）は①92%、②96%、③87%、④94%、⑩72%と高評価が続いている。これからも居心地のよい学級、やる気のある学級づくりや、生徒一人ひとりに目標と自己肯定感・自己有用感を持たせる指導、生徒が自発的かつ主体的に自己を成長させていく過程を支援する指導を実践的に行っていきたい。 ・不登校生徒や教室へ入れない生徒に対し、各教職員が関わりを持ち指導する体制について評価が低くなっている。これは、いわゆる県「不登校」加配の職員がいなくなり、コーディネーターする専属教員を配置できなくなったことが大きな要因であると考えられる。今後は、生徒指導部会を中心に、全職員が組織として一人ひとりの生徒に対応していく事を徹底する必要がある。 ・問題行動への対応については、正確な実態把握を行い、関係職員が共通理解を図った上で、生徒指導主事を中心に組織的に対応する。それぞれの教師による指導の違いが出ないように、ブレない指導体制を構築していきたい。

V 地域との連携について（児童生徒用、保護者用アンケートも含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全8項目中、7項目で肯定的評価が90%以上となった。 ・一方でA評価が低かったのは、昨年度同様に「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。」と「あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。」であった。 <p>※ 生徒アンケートより</p> <p>⑱ 地域の人と出会ったらあいさつをしていますか… A61%(前年比+3)、B30%(前年比-4)、C6%(前年比-1)、D2%(前年比±0))</p> <p>※ 保護者アンケートより</p> <p>③学校(学年・学級)だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる… A6%(前年比-1)、B73%(前年比±0))、C16%(前年比+3)、D2%(前年比-1)、E4%(前年比-1)</p> <p>⑤ 授業参観や学校開放日などは子どもの様子を知るよい機会となっている… A16%(前年比-1)、B70%(前年比±0)、C8%(前年比±0)、D1%(前年比±0)、E4%(前年比+1)</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の方が本校の教育活動を知る機会として、定期的に授業参観や学校開放日を実施している。また、学年だよりや学校ホームページなども活用し、開かれた学校づくりを推進している。これらの取り組みの成果が、教職員と保護者からの肯定的な回答となってあらわれている。今後も、これまでの取り組みを継続しつつ、社会に開かれた学校教育の実現に努めていきたい。 ・さらに今後は、よりよい学校教育を通してよりよい社会をつくるという理念を学校と社会とが共有し、学校と地域保護者が一体となって子どもたちの成長を支えていく必要がある。地域連携会議や学校評議員会、PTA学校委員会、学年学級懇談会などを通して、学校・地域・保護者が連携協働し、地域人材の積極的活用や、生徒が地域に出て活躍する場の設定などを実現させていきたい。
VI 学校の特徴に関して	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・8項目全てが、肯定的評価90%以上となった。また前年度に比べ、全ての項目においてA評価が上昇した。 ・最頻値がAとなったのは5項目、Bが3項目となった。 ・特にA評価の割合が高かったのは、「あなたの学校は、授業参観日や学校開放日を保護者や地域に伝え、定期的に実施している(A71%)」と「生徒が意欲的に読書活動に取り組むよう、指導に努めている(A67%)」であった。一方で、A評価が比較的低かったものは、「少人数やTTの指導などきめ細かな学習指導により、生徒の学習意欲が向上している(A27%)」であった。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の学校経営方針の重点項目である「心を耕す読書活動」「保護者・地域との連携」「学校行事(特別活動)を通して生徒を育てる。」や、生徒の努力目標の「あいさつ」、生徒指導の基盤となる「生徒と教師の信頼関係」「師弟協働」「教職員の一体感」等に対する教職員の自己評価が高くなっていることは、これまで継続的かつ重点的に取り組んできた成果だと言える。今後は、「少人数やTTの指導などきめ細かな学習指導」等を通して、生徒の学びに向かう力・人間性を向上させる具体的な取り組みを行い、学力向上を図っていきたい。 ・また、本校の特色である「あいさつ」や「読書活動」について、生徒会活動とも連携し、さらに質の向上に取り組んでいく必要がある。

3 まとめ

〈成 果〉

アンケート結果は、全ての項目で肯定的な回答となり、概ね満足できる結果であった。また全51項目中、肯定的評価が前年比で5ポイント以上の上昇がみられた項目は11項目あり、5ポイント以上の下降があった項目は2項目にとどまった。これは、継続的に全教職員が学校教育目標の具現化に向けて、学校経営方針に基づいて共通認識・共通理解をして教育活動にあたっている結果であると考えられる。

〈課 題〉

特別支援教育や不登校生徒への組織的な指導体制、職員の校務分掌への負担感、家庭学習に対する指導、地域連携等について改善の余地があることが確認できた。また保護者は学校に対し、個に応じた学習指導の充実や、より積極的に保護者の意見を聞く姿勢や相談体制を求めていることも把握できた。生徒においては、将来の夢や希望を持っていると答えたのは75%で、キャリア教育のさらなる充実が求められている。今後これらの項目に対し、PDCAサイクルを活用し、教職員が組織的・協働的に取り組む必要がある。同時に、教職員の多忙化改善についても計画に則り着実に取り組んでいくことも重要である。

また、アンケートの中にはC・D評価が少なからずあることから、今後も全体の傾向だけを見て判断せず、教職員や生徒一人ひとりに目を向け、保護者や地域の声に耳を傾け、なぜCやDと評価したのか、しっかり分析を行い丁寧な対応を行っていきたい。